

## 桜の摂津峡へ (第70回くらわん会 2002/04/02)

大阪近郊とは思えない清流と満開の桜が私達を迎えてくれた。JR 高槻駅の南側歩道橋上に仮集合したくらわん会のメンバーは、順次市バス乗り場へ移動して上の口行のバスに乗り、スタート地点に向かう。

今回から無線クラブメンバーも世話役として加わり、連絡はスムーズ、10時20分過ぎにはほぼ全員が揃う。工事用資材置き場の一角を借りて出欠確認に続き恒例の挨拶、説明等が進む。今日の参加者は初参加14名を加えて総勢147名である。またとない快晴とあって「晴れ男」原会長の挨拶の声もはずむ。50回参加の4名を初め多数回参加者の表彰、今回から新しく世話人になられた5名の紹介、新参加者の挨拶に続き、担当の高濱世話人からコースの説明があった。

一行は身も心も軽く、のどかな田舎道を摂津峡へと歩き始める。マス釣りの看板と釣り人が見え始め溪流にさしかかる。夫婦岩、八畳岩などの奇岩と清流を左に見ながら、足元に注意して進むと程なく白滝である。

世話人の案内でコースを少し離れて「東海自然歩道」横の白滝を往復する。茶店横のメインコースに再集合、さらに溪流を下る。緑の中に満開の桜が美しい。小さな橋で連絡した対岸の茶店風売店も風情がある。

やがて花登筐が「山みどり 谷間の水に彩はえて ながめもうまし いで湯の宿」と詠んだ山水館の横を抜けて桜満開の摂津峡公園に到着する。



摂津峡大橋を渡るとマス釣り場の看板、ここを左にまがって摂津峡へ

JR高槻駅から高槻市営バスに乗り、上の口バス停まで移動した



上の口の建設資材置き場を借りて百四十七名が集合



満開の桜や咲き始めた山ツツジに胸躍らせながら上の口を出発



夫婦岩、八畳岩などの奇岩と清流を左に見ながら、足元に注意して進む





「東海自然歩道」横の白滝を少し離れて  
世話人の案内でコースを少し離れて

参加者は三々五々桜の下で弁当を広げる。おりしも子供達の春休みとあって、子供連れでバベキューをする人、杯を交わす同僚らしき人と賑やかである。我々の仲間もビールを買ってくる人もいて、いつもより長い1時間の昼休みを楽しむ。飾りのぼんぼり、満開の桜、快晴と言うことなしである。

昼食後は、桜の花びらが流れる芥川の河川敷を主に平坦な道を下る。大阪の最高気温は25℃の夏日、汗ばむ中での行進となる。「あくあびあ芥川」に到着する頃には、ややお疲れの顔も見えて、見学を兼ねて一休み。よく整備された展示場を見学して高槻の自然と文化を学ぶ。

帰りはJR高槻までの歩行である。名神下をくぐり、下流まで続く桜と花見客を横に見ながら進み、市街地にほど近い河川敷で一旦解散し、芥川一里塚の前、商店街のアーケードをくぐって、JR高槻駅に到着した。

快晴、清流、花、見学全てが最高の楽しい一日であった。  
杉浦義次記



奇岩清流の摂津峡にさしかかり爽やかな瀨音を聞きながら足も軽い



摂津峡に沿って殆ど下りだが時折、川岸の急な崖を登る

花登筐が「山みどり 谷間の水に彩はえて ながめもうまし いで湯の宿」と詠んだ右下が有名な山水館



摂津峡桜公園の上から展望すると、満開の桜が圧倒的な迫力で広がっている



満開の桜の花びらが青空に抜けるように日射しに光る

桜祭りの真っ最中で摂津峡公園は花見客で一杯、いつもより長めの昼食はつつい宴会風に



桜祭りの公園を出て、花びらが流れる芥川の清流沿いの遊歩道を、ゆったりと歩く

公園から摂津峡を見下ろすと山間を埋めた桜も見事な景観だ



高槻の自然と文化の展示を熱心に見学

あくあびあ芥川に到着してすぐに見学、この上にはテニスコートや公園もある



よく整備されたあくあびあ芥川の展示場を見学あ、くあびあ芥川の上から今日のコースを展望する



旧西国街道沿いにある芥川一里塚を越えともうアーケード通りで、商店街を抜けるとJR高槻駅  
芥川下流の河川公園には見事な桜の大木ともみじの木が交互に植えられていた。今日はここで解散



<行程>

JR 高槻駅⇒(高槻市営バス)⇒上の口バス停⇒白滝⇒摂津桜公園⇒下の口⇒あくあびあ芥川⇒JR 高槻駅 約8km 2002年04月02日 147名参加